

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 07 月 31 日	
所属部局・職	京都大学理学研究科動物学教室動物行動学研究室
氏名	福田 将矢

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県 京大笹ヶ峰ヒュッテ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習・無雪期
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 18 日 ~ 平成 29 年 7 月 21 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学教授 幸島司朗先生、静岡大学准教授 杉山茂先生、京都大学特定助教 滝澤玲子先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の笹ヶ峰実習は、京都大学笹ヶ峰ヒュッテ(新潟県妙高市：標高 1300 m)において植物観察や火打山(標高 2462 m)登山、ロープワーク実習やビバーク実習を通して、フィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶことを目的として行われた。
行程 7月18日：到着、実習ガイダンス、ヒュッテ周囲の探索 7月19日：個沢への踏査、トクサ沢踏査、ロープワーク講習、登山コース確認 7月20日：火打山登山 7月21日：ロープワーク講習、ビバーク講習、清掃
1 日目にヒュッテに到着したのちは自己紹介を行ったあと、実習の大まかなガイダンスを行い、ヒュッテ周囲の踏査を行った。幸島先生や杉山先生の説明を聞きつつ、ツタウルシなどの危険植物や、シラカバ、ダケカンバなど高山に特有の植生などを見て回り、宇棚の清水まで行った。今回は見られなかったが、このあたりにはクロサンショウウオやブチサンショウウオなどが生息しているとの情報を聞いたため、またぜひ別の機会に来てみたい。この日は 28 種の植物と 5 種の動物(昆虫)を見ることができた(図 1)。帰ってからは実習生と協力して、パエリアやサラダなどを作成した。普段作らないような大人数分の料理を作り、皆で盛り上がりながら食べるというのは中々ない経験で、とても楽しめた。
2 日目は、朝 9 時にヒュッテを出発し、近くのトレイルを経由して沢に向かった。植物なのに葉緑体を持っていないギンリョウソウ(図 2)や、虫をおびき寄せるために葉の色を変えるマタタビ・ミヤママタタビ、また鳥の糞などに集まるジャノメチョウなど、様々な植物・動物を観察することができた。ロッククライミングの基礎である三点確保などを教えてもらいつつ、約 2 時間かけて沢を登り、1630m 地点まで到達した。沢の途中に水たまりがあり、ヤマアカガエルのオタマジャクシらしきものも確認することができた(図 3)。ヒュッテに戻り、午後からはトクサ沢へ向かった。道中、アキアカネやモンキチョウ、アサギマダラなどの昆虫が多く見られた。この日は 13 種の植物と 9 種の動物(昆虫)を見ることができた。ヒュッテに帰り、皆でカレーを自炊したのちに、地図を用いて翌日の火打山の登山コースの確認をした。休憩ポイントや勾配のきつい場所など、登山において必要な予備知識について学ぶことができたのはよい経験であ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

った。

3日目は火打山登山であった。朝4時に起床し朝食を作り、5:37にヒュッテを出発した。標高が上がるにつれてキヌガサソウやシラカバなど高山植物が増えていくのが印象的であった(図4)。大人数での登山ということでこまめに休憩を取ったので、11時過ぎに難なく登頂することができた(図5)。天候もよく、山頂からは白馬山など周りに連なる日本アルプスの山々が見渡せた。膝に負担がかかると同時に足元が雪融けの泥や岩で滑りやすくなっていたため、往路よりも復路の方が苦勞することとなった。16:30頃にヒュッテに戻り、少し休憩したのちにこの日はバーベキューを行った。

最終日は朝からロープワーク実習を行った。もやい結びや簡易チェストハーネスの作り方などを学んだ。特にチェストハーネスは命綱としても使えるので、ぜひ実践でも使用したい方法であった。またそのあとにビバーク実習を行った。ツェルトと呼ばれる簡易テントを用いて、風よけの方法や非常時の水の作り方、テントとしての使い方などを一通り学んだ。山などで天候不良の場合だけでなく、怪我などで行動できなくなった場合に命を守るためにもぜひ覚えておきたいと感じた。

私のフィールドは里山がメインのため、高山における歩き方や記録の取り方、ロッククライミングの方法などを学ぶことができたのはとてもいい経験になった。この経験をぜひ自分のフィールドでフィードバックしていきたいと思う。



図1 7月19日に見られた植物のスケッチ



図2 ギンリョウソウ



図3 ヤマアカガエルのオタマジャクシ



図4 キヌガサソウ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 5 火打山山頂で撮った記念写真



図 6 エイトノット結びで作ったハンモック

6. その他 (特記事項など)

幸島先生や杉山先生、滝澤先生、松沢先生には実習中いろいろな場面でお世話になりました。
この場をお借りして感謝申し上げます。